学推だより vol.13

KOKURA
Elementary School
January 5th / TUE / 2016
発行：学推担当

どのように「子どもの学び」をとらえるか①。

子どもの「学ぶ姿」とは。

あけましておめでとうございます。今年も学推だよりをよろしくお願いします。

本日から２学期後期が始まり，今年度も残り３ヶ月弱となりました。この期間は年度末事務を中心に何かと慌ただしくなりますが，次年度の授業づくり（授業改善）に向けた準備期間として，各学級での実践の振り返りを大切にしていきたいですね。自省を込めています。

前号では私の拙い授業の振り返りを書かせてもらいましたが，そこから見えた私の課題は，**「子どもがどのように教材を見るのか（学ぶのか）をしっかりとらえること」**でした。このことは，これから求められる授業づくり（アクティブ・ラーニングの必要性）について文科省が言っている「『何を教えるか』という知識の質や量の改善はもちろん，**『どのように学ぶか』という，学びの質や深まりを重視することが必要**」につながります。

つまり，「～と教えたら分かるだろう」という教師目線はもちろんのこと，それよりもこれからは，**「子どもたちは教材をどのように見るのか」**という子ども目線から授業をつくる力が問われてくるということです。これまた自省を込めています。

そこで，今号から**「子どもの学ぶ姿（教材の見方）とはどういう姿なのか」**を考えていきたいと思います。事例をいくつか取り上げます。目の前の子どもの姿（言動やつぶやき）から，「子どもの学び」のとらえ方について考えていきましょう。**今後特に問われる力です。**

今回は，幼稚園児（５歳児）の事例から考えます。

１人の幼児が「ミカン狩りに行ってきた」と，たわわに実のついたミカンの枝を持って登園しました。その枝を取り囲んだ学級の幼児たちは実を触ったり香をかいだりしているうちに「食べたいね」と口々に言い出し，お弁当の時間に食べようということになりました。

しかし，ミカンを数えてみると，学級の人数分はありません。「友達と半分こね」と担任が何気なく声をかけたところ，様々な姿が見られました。

ある子は皮を剥くのも半分，交代で剥いています。ある子は，皮を剥いた実を目分量で「えいっ」と大きさが同じくらいになるように２つに割っています。お弁当のふきんの上にミカンの袋を全部並べて，数えてから半分にする子もいます。別の子は，袋を１つずつとりながら「〇〇ちゃんの」「わたしの」と分けていっています。同じように分けようとしたら，袋が１つになったことに戸惑い，しばらくして「先生，もらって」と担任のところに持って来た子もいました。

担任が発した「半分こね」という言葉から様々な姿が見られました。学推だよりをご覧の先生方，幼児のこれらの姿からどのような学びを見取ることができましたか。次号で，津金美智子先生（文科省初等中等教育局視学官）の解説をご紹介致します。

ちなみに私は，幼児が「学ぶ」ということを全く見取ることができませんでした。大反省。

【参考資料】　『初等教育資料　９月号』　文部科学省　著　東洋館出版社（2015）